

情報共有

(~~事故~~ 非管理メモ)

②

9/11 19:50

不掲載

公開不可

広報部

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 9 月 11 日 (日) 18:00~18:30

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 20 名 (カメラ 3 台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

原子力運営管理部

広報部

NISA 等へ プレス対応

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所の状況
- ・ 福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について (第百七十報)
- ・ 福島第一原子力発電所付近における海水中の放射性物質の核種分析の結果について (第百六十九報)
- ・ 福島第一原子力発電所取水口付近で採取した海水中に含まれる放射性物質の核種分析の結果について (9月10日採取分)
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果 (9月10日採取分)
- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (9月11日12時現在)
- ・ 福島第一 1~3号機 原子炉注水ミニフローラインの追設状況
- ・ (動画) 西澤社長訓示動画

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

- Q. 先程公開された動画で社長が挨拶をしていた場所はどこか。また挨拶の際に作業員は何人程度いたのか。
- A. 場所は福島第一原子力発電所免震重要棟の緊急時対策本部室。挨拶の際の作業員数は社員、協力企業作業員を併せ 70 人~80 人程度。今回提供させて頂いた映像は、福島第一原子力発電所で撮影したのものだが、その他に福島第二原子力発電所とJヴィレッジも訪問している。
- Q. 西澤社長が挨拶をしたのは、本日の午前中か。
- A. 福島第一原子力発電所を訪問したのは 11 時~14 時。午後は現場の確認をしていることから、本日公開した映像は午前中に撮影したもの。
- Q. 社長が現場確認をしたとのことだが、確認したのは1号機~4号機という認識でよいか。
- A. 道筋の進捗の確認ということで、水処理システムの状況等を確認した。
- Q. 現場を確認している様子が映っている動画はないのか。

A. 現場を視察している画像はない。

Q. 本日で事故から半年となるが、被災者やマスコミ向けに会見を開く予定はないのか。  
A. 被災者への訪問については、今後時間を調整したうえで訪問させて頂きたいと考えている。記者会見については、案件に応じ対応させて頂く。

Q. 事故から半年が経った今も原子力発電所の周辺は住める状態になっていない状況の中で、被災者やマスコミに対し会社としての見解を示すべきではないか。  
A. ご意見として承る。

Q. 明日統合会見が開催されるが、その前後で社長が会見を行う予定はあるか。  
A. 現時点では予定していない。

Q. 原子炉の注水ラインにミニフローラインを設置することで、注水状況にどのような変化があるのか。ミニフローライン追設の狙いを教えて頂きたい。

A. ミニフローライン追設の狙いとしては、3号機で流量を調整した際に配管弁部に振動があったことに起因している。ポンプ容量  $20\text{m}^3$  に対し、現在流量を絞った状態で運転していることから、配管弁部に振動が発生した。ミニフローラインの追設により、ポンプから一定流量の水を流せるようになり、ポンプ側の負担を減らせるようになると考えている。

Q. 以前確認をお願いした E-R-S-S の情報共有についてわかったか。  
A. 今のところ E-R-S-S の情報が当社の緊急対策室で共有されたということは確認できていない。引き続き確認を進めてまいりたい。

Q. STEP 2 の終わりに、保安院が、循環注水のラインを多重化する、恒久的に使えるか評価するというような話をしているが、東京電力にこの件についての案はあるのか。  
A. 先日、原子炉注水ラインの報告徴収で提出した計画に従って設備の維持管理に努めてまいりたい。また、STEP 2 の中で原子力安全・保安院が施設の安全確保の考え方を示されると聞いており、その考え方に従って施設管理計画を定めたいと考えている。

Q. STEP 2 は 3～6 ヶ月であり、恒久的な水処理システムを作るのであれば時間がかかることが考えられ、STEP 2 に間に合わないのではないか。  
A. STEP 2 で作るかどうかは未定。そのような中、ホースの漏えいを少なくするには鋼管に変えるべきなど対策をとっていきたい。

Q. 本格的な水処理システムの検討結果については、STEP 2 の終わりくらいになるのか。  
A. 検討結果がまとまり次第お知らせしたい。

Q. 本格的な水処理システムの設置にはどれくらいかかるのか。  
A. まだわからない。保安院、政府関係者とよく相談をしながら設計をすすめてまいりたい。

以上